

## 2020.08.09 聖書預言アップデート

### 患難前携挙の証拠

<https://youtu.be/2PSG4w8XbyQ>

#### 『患難前携挙の証拠』

ではおはようございます。毎週の「聖書預言アップデート」へようこそ。ご参加いただきありがとうございます。初めての方々がたくさんおられるのを存じています。新しい方のために、お勧めしたいのですが、ハワイ時間の午前11時15分から始まる第二礼拝にもご参加ください。第一礼拝は、「預言アップデート」で、そして第二礼拝が聖書の「解き明かし」です。日曜日の朝の説教です。私たちは現在、節ごとの「聖書の教え」で第一テモテを学んでいます。是非そちらにもご参加ください。今日お話しする内容ですが、今日もまた、聖書の教えが預言アップデートと結びついている一例です。こんにち直面しているこの世界的な危機を主が私たちに乗り越えさせて下さることを、私たちが、いかに主に信頼することが出来るか、また、その理由は何かについてお話しします。非常に励まされます。主が私たちにご用意なさっておられるものを本当に楽しみにしています。是非ご一緒ください。また、私の出生地であるレバノンのベイルートで爆発があった後、私にご連絡をくださった皆さんに感謝したいと思います。

現在ベイルートに私の親戚がいるかどうかは分かりませんが、私たちは確かにベイルートの人々のために祈る必要があります。ご覧になったかどうか分かりませんが、今朝私が教会に来る前にも、暴動と抗議行動が増えています。皆さんが理解せねばならないのは、特にベイルートでですが、実際には世界中で先週お話ししたように、世界は瀬戸際にあり、完全崩壊の寸前にあります。政治的にも、経済的にも、全てにおいて。そして確かに、レバノンではそうなっています。イスラエルでもそうです。イスラエルで何が起こっているのかを皆さんご存知かどうかは分かりませんが。この件について、その預言的な重要性について尋ねている方々にお答えすると、私たちにはまだ分からない事がたくさんありますが、しかし、間違いないくイザヤ17章1節が焦点に入ってくるように見えます。これは、ダマスカスの破壊についての預言です。

「見よ。ダマスコは取り去られて都でなくなり、瓦礫の山となる。」（イザヤ17:1）

以前のアップデートで、この預言や、これに似たような他の多くの預言について、再三話してきました。ですからもしかしたら、また今度、主の御心であれば、これらの預言を再考するかもしれません。しかし、今日は、先週述べたように別のことをします。患難前携挙について話します。具体的には、教会の携挙が、絶対に7年間の患難の前に起こらねばならないという聖書からの証拠です。このライブ配信が終わったら、オンラインの方に、それから地元の皆さんも、ご興味があれば、PDFファイルのリンクを貼っておきます。4ページのPDFファイルになっていて私たちのウェブサイトでご覧になれます。ライブ配信が終わったら、そのリンクをつけますので、私たちのウェブサイトアクセスしダウンロードして頂けます。それには、今日見ていく内容すべてと、実際、それ以上の事が含まれています。でも、覚書や参考文献や聖句、そういうのが全部載っています。それらに興味がある方は、ライブが終わったら表示されるリンクにアクセスなさってください。いいでしょう。本題に入る前に、「なぜこれが?」「なぜ今?」という問題に取り組みたいと思います。2つの主な理由があります。1つ目は、7年の患難時代に起こると告げられている事が、今、起こり始めているその速さの故です。非常に速い

です。迅速に。とにかく、猛烈な速さです。ルカの福音書 21章18節(※28節です)で、イエスはこのように言われました。「これらのことが起こり "始めたら"、」 キーワード = 始めたら「身を起こし、頭をあげなさい。あなたがたの 贖い (あがない) が近づいているからです。」 言い換えれば、これらの預言が 実現し始めるのを見始めると...7年間の患難時代に その最終的な成就が見られることを 私たちが聖書から知っている 預言です。それらが今すでに起こり始めています。私が今まで聞いた中で最高の描写だと思うのが クリスマスと感謝祭。その時期にショッピングモールに行くと...まあ今は行けませんけどね。行けますか？

どうでしょう？ 私はあまり外出しませんので。でも、行けるとしましょう。マスクを着けて。中に入ると、すべての装飾と看板が クリスマスに向けて準備されています。毎年毎年どんどん早くなっています。お気づきですか？ 9月頃には、既にクリスマス関連のものが 出ています。まだ9月ですよ。こういうことなんです。中に入ると、クリスマスの あらゆる 兆しが見られます。でも感謝祭はクリスマス前です。では、クリスマスがそれくらい近いとしたら、感謝祭は どれほど近いのでしょうか。要点が分かりましたか？

これら全ての 患難時代の預言の兆候 が既に見えていて、いわばそれらが稼働しているのが見え、そして感謝祭がクリスマス前にあるように、 携挙が再臨前に起こるなら、私たちは どれくらい近いのでしょうか？ だから、私たちは今、 この話をしているのです。2つ目の理由は、実に1つ目の理由と 結びついています。クリスチャンとして私たちが、 患難前携挙について 迷いがあるなら...言い直します。患難前携挙という 健全な教義について 確信がないなら私たちは、事実上サタンに白紙の小切手を渡し、私たちの人生における疑念と恐怖の量 (金額) を 好きなように書き込ませている事になります。なぜならもし私が、よく分からないとか、 はっきりしないとか、 確信が持てないとか、信じられないなら、それはゲームチェンジャーです。それはすべてを変えてしまいます。そうなる と、私はイエス・キリストを 待ち望むのではなく、反キリストを 待っていることになります 私は非常に 深刻な 永遠の生死に関わる 決断に直面しています。獣の印を受け入れるかどうかについて。その準備は既に整っています。そのテクノロジーは既に整い、反キリストの体制は既に整っています。それは既に存在 します。それはただ時間の問題です。...これについては以前に話しましたので、あまり時間をかけたくないのですが、私たちの理解には 関連していて適切であるかもしれません。聖書の預言には、私が 保存可能期間とか 有効期限と呼びたいものがあります。物事が動いていて、この勢いがあるときは、一時停止ボタンを押すことは出来ません。「鉄は熱いうちに打て」という 諺通りです。あるいは、私たちが思い出したくないくらい 何度も言われるのを聞いたように、「良き危機を無駄にするな。」 あえて言うならば、これは 「良い」 危機ではなく、「ほぼ完璧な」 危機です。完璧な危機を思いつきたかったら、これになるでしょう。白状しますが、今日の教えに備えるためにアーカイブを見直していくことで、私は本当に励まされ、希望を新たにし、 信仰を強められました。私は疑いを持っていただけではありません。私は聖書に戻って、神の御言葉に戻って、 御言葉の神に戻って、この人生を変える 真実を再考する 必要がありました。再確認するために。正直に言うと、今 起きていることを見ていると、こんな風に思ってしまうからです。「大患難前携挙じゃなきゃ...」 そうでしょう？ そして、その通りなんです。今日、皆さんが大きな励ましを受けられることが私の願いであり、祈りでもあります。皆さんが希望を新たにし、皆さんの心が強められますように。以下は、患難前携挙を証明する 多くの理由のうちの7つです。そして、私はそれを RAPTURE(携挙)という単語の 折句 (語呂合わせ) の形にしました。

(R)私たちへの啓示、(A)私たちへの影響、(P)私たちの純粋さ、(T)私たちのためのラッパ、(U)私たちとの統一性、(R)私たちにある責任、そして、(E)私たちからの励まし。

何と賢いのでしょうか？ 11年前に思いついたんです。勘弁してください。私はちょっと気に入ってるんです。皆さんも そうだといいいのですが。覚えやすい方法です。実際、私は聖書のすべての書を暗記するために 頭文字を折句の形で使用しました。各書の名前の頭文字をとって、そうすることで、旧約聖書と新約聖書の両方の書の名前を全部覚えることが出来ました。事実、詩篇の中には、、、詩篇と一緒に学んだ皆さん、詩篇の多くは、覚えられるように折句形式で書かれています。そうやって折句方法で暗記するんです。とにかく、私はそういうことにしてあります。では、最初の理由から始めましょう。私たちに向けた黙示録からの啓示。それを朗読する人、聞く人、心に留める人に 祝福を約束する聖書の中で 唯一の書。聖書全体で他のどの書にも、黙示録にあるような祝福はありません。しかし悲しいことに、それは聖書の中で一つ、クリスチャンが疫病のように避ける書です。そうすることで、彼らは 待ちうける祝福を 奪われています。そして彼らはその書を恐れています。「とても終末論的だから！」実際、原語のギリシャ語の「黙示/啓示 (Revelation)」という言葉は、「アポカリプソス」から来ています。英語の

「アポカリプス (啓示)」の語源です。それで、その言葉を聞いたとき、皆さんは心の目で何を想像したり、描いたりしますか？「黙示録 (アポカリプス)！」 「うわ〜！」実際にそれが 本当は何を意味するか知っていますか？ それはお披露目すること、明らかにすることです。これが非常に深いことなのは分かっています。啓示、明らかにする。(Revelation ⇔ Rveal + ation) それは 未来の出来事をお披露目すること、明らかにする事です。それが黙示録です。1章の19節、これを黙示録における「神の概要」と呼んだ人がいます。ヨハネはイエスから告げられます。

「それゆえ、あなたが見たこと、今あること、この後起ころうとしていることを書き記せ。」

(黙示録 1:19)

ギリシャ語で メタタウタ。これらの事の後に。言い換えれば、「ヨハネよ、あなたが目撃したものを書きなさい。」 = 過去 「今、あるものを書きなさい。」 = 現在 「そしてこの先のことを書きなさい。」 = 未来

過去、現在、未来。従って、黙示録全体は、この神の概要によって分割することができます。過去、現在、そして未来。黙示録4章1節から、その書の終わりまでは、すべてこの先の未来の事です。ですからヨハネは、黙示録4章1節にこう書いています。

「その後、(ここからは未来の事です。) 私は見た。すると見よ、開かれた門が天にあった。そして、ラッパのような音で私に語りかけるのが 聞こえた、あの最初の声があった。『ここに上れ。この後必ず起こることを、あなたに示そう。』」 (黙示録 4:1)

ですから言わばヨハネは、携挙され、引き上げられ、天国に連れていかれ、そしてイエスが言われたのです。『ここに上れ。この後必ず起こることを、あなたに示そう。』ほ〜 スゴイですね。つまり、この神の概要(過去、現在、未来)の中に、患難前携挙の証明があります。その論理をお話しします。1章は過去です。1章はすべて、イエス・キリストが十字架につけられ、葬られ、よみがえり、栄光を受けられた事。過去形。「あなたの見た事」ヨハネはその目撃証人でした。

2章と3章は現在。教会の歴史。

当時小アジアとして知られた、現代のトルコに実在した7つの教会宛ての7通の手紙。ヨハネが、イエ

スからの靈感を受けて書いたもので、当時 その地域の7つの教会に送られたものですそれが教会の歴史です。そして、ここが重要です。第1章、第2章、第3章で、「教会」と言う語は19回語られています。4章1節以降、それが何回 語られているか、知っていますか？ ゼロ。ご覧のとおり、4～5章は、まさに携挙のこと。6章から19章：7年間の患難時代について。20章：千年王国。21章から22章：新天新地。それが黙示録にある、美しい壮大な神の概要です。さて、なぜ教会は患難時代について書かれた6～19章に、語られていないのでしょうか？ なぜなら、教会は患難時代にいないからです。おバカちゃんとも呼んで下さい。もっとひどい呼ばれ方をした事もあります。でも、それが、理にかなっていませんか？「でも患難時代に救われる人々はどうなのか？」と聞く人もいるでしょう。彼らは花嫁ではありません。これについては、後で詳しく説明します。彼らは、患難時代の聖徒と呼ばれています。これらは、獣の印と反キリストを拒否する人々です。彼らはイエス・キリストを受け入れ、その信仰のために死ぬのです。彼らは殉教し、以前のアップデートで話したように、斬首されます。彼らは花嫁ではありません。彼らは 救われたクリスチャンです。黙示録を学ぶと、彼らは御座で仕えています。花嫁はキリストと共に御座に座っています。その区別をしてください。2者の違いを。彼らは花嫁ではありません。彼らは文句を言わないでしょうけど、しかし、彼らはキリストの花嫁ではありません。では、2つ目の理由。携挙が7年間の患難前に起こらねばならないのは、私たちに与える影響のため。説明させてください。携挙がいつでも起こり得ることを知っている事は、この世界で、私たちがどのように生きるかについて、重大な影響を与えるはず。これは「切迫性の教義」として知られているものです。私はその言葉が大好きです。「切迫した(imminent)」それは、その意味そのもののような響きだから。「今すぐにも(any minute)」(\*イミネント ⇔ エニミニト)それは文字通りの定義ではありません。申し訳ない。「切迫性の教義」とは、携挙が起こる前に 起こらねばならない事は何もない という健全な教義です。携挙はいつでも起こり得ること。それは差し迫っています。

(imminent)それはいつでも起こりえます。(any minute) はい、これでもうやめておきます。そのため、どう私たちが生きるかに 大きな影響を与えるはず。マタイの福音書 24章。私に言わせれば、救い主が 教えられた中で最も強力で深遠なたとえ話です。45節から始まり、イエスが語り、教えておられます。

#### マタイの福音書 24章

45 ですから、主人によってその家のしもべたちの上に任命され、食事時に彼らに食事を与える、忠実で賢いしもべとはいったいだけでしょう。

46 主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見てもらえるしもべは幸いです。

47 まことに、あなたがたに言います。主人はその人に自分の全財産を任せるようになります。

48 しかし(対照的に48節) 彼が悪いしもべで、『主人の帰りは遅くなる』と心の中で思い、彼は戻ってこない。彼が戻ってくるって、彼らは何世代にもわたって言ってきたじゃないか。その影響は？ その結果は？

49 仲間のしもべたちをたたき始め、酒飲みたちと食べたり飲んだりしているなら、

50 そのしもべの主人は、(興味深い詳述です) 予期していない日、思いがけない時に帰って来て、彼を厳しく罰し、偽善者たちと同じ報いを与えます。しもべはそこで泣いて歯ざしりするのです。

最大の嘘が何か知ってますか？ 地獄の穴からの最大の嘘は、「神はいない」というものではありません。

また「天国はない」とか、「地獄はない」というものですすらありません。それらはすべて嘘ですが、

最大の嘘は、「天国も地獄もない」というものではありません。最大の嘘は、「急ぐ必要はない」というものです。急がなくていい。まだまだ十分な時間がある。「パーティーしようぜ〜。」正しいしもべはそうではありません。「よくやった。」と言われる、善良で忠実なしもべは違います。なぜか？ 今にも戻って来るかもしれない主人が、いつでも戻って来られるという差し迫った期待を持って生活していたからです。それで彼は常に準備をし、常に見張って生活していました。それが聖書全体を通しての訓戒です。準備して見張っていること。そうすれば、主が来られる時に、あなたにとっては夜中の泥棒のようにはならない。第一、第二テサロニケの学びで私たちはこの事について勉強したばかりです。第二テモテ4章8節、私はこの約束が大好きです。これは頼りにできます。パウロは今、彼の人生の終わりにいます。携挙が先に起こらなければ、私たちはその節の学びをします。私たちは今第一テモテです。第一テモテの次は何でしょう？ またしてもすごく深いですが、第二テモテです。ですから4章8節に入ったら、これについてさらに話します。パウロは人生の終わりにいて、彼はそれを知っています。8節。彼は言います。

「あとは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終えました。

そして今、私に待ち受けているのは、この義の冠です。その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けてくださいます。私だけでなく、（お聞きください。）

主の現われを慕い求めている人には、だれにでも授けてくださるのです。」（第二テモテ 4:8）

なんと素晴らしい。。これが何を意味するか知っておられますか？ 男の人には変なのは分かりますが、王冠は女の子のもの、みたいな...間違いなく、皆さん、これらの王冠は受け取った方がいいです。これはその一つです。それは、主が来られるのを見張り、あこがれ、疼き、懇願し、待ち、望んでいる者を待ち受ける義の王冠。

### 第一ヨハネ3章

2 愛する者たち、私たちは今すでに神の子どもです。やがてどのようになるのか、まだ明らかにされていません。しかし、私たちは、キリストが現れたときに、キリストに似た者になることは知っています。キリストをありのままに見るからです。

そして、彼が3節で言う事を非常に注意深く聞いてください。

3 キリストにこの望みを置いている者はみな、キリストが清い方であるように、自分を清くします。

まず、ヨハネがここで何と言っていないかを指摘させてください。彼は、私たち自身に、自分自身を洗ったり 聖めたりする 傾向や能力があると 言っているのではありません。そうではなく、ヨハネが言っているのは、お聞きください。「あなたはキリストの花嫁です。」花嫁についてはすぐに説明しますが、それは純粋な 処女の花嫁です。あなたがたは、キリストに与えられた義によって、清くされるのです。ヨハネが言っているのは、もしあなたが本当に 彼の現われを待ち望んでいるのなら、あなたは身辺整理をするでしょう。あなたは神の事柄について 真剣になるでしょう。あなたは神と正しい関係になり、そしてあなたは 主が来られるのに用意ができるでしょう。

さて、これが3つ目の理由に繋がっていきます。それは、キリストの花嫁としての 私たちの純粋さです。第二コリント11章2〜3節で、パウロが言います。

### 第二コリント11章

2 私は神の熱心をもって、あなたがたのことを熱心に思っています。...そして、これが理由です。パウロ



曰く、私はあなたがたを清純な処女として、一人の夫キリストに献げるために婚約させたのですから。あなたはキリストと婚約しています。

3 蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、あなたがたの思いが汚されて、キリストに対する真心と純潔から離れてしまうのではないかと、私は心配しています。

パウロがここで述べ、また他の書簡でも繰り返し言っているのは、私たちがキリストの花嫁であることです。キリストと婚約し、間もなくキリストとの婚姻で結婚する私たちは彼の「花嫁」になります。やはり、男性の皆さんには、これは本当に妙な感じですが、間違いなくあなたは花嫁になった方がいいんです。私にとって、患難前携挙の最も説得力のある証拠の1つは、古代ユダヤ人の結婚式の慣習で、それは患難前携挙を見事に描いています。また、それは、イエスは患難前携挙を教えたのか？ というよく聞かれる質問への答えにもなります。ありがたいことに、イエスはこれを教えただけでなく、福音書では何度もイエスが花婿としてご自分の花嫁に語られています。そして彼らはそれを知ってたはずで

す。彼らはそれを理解していたはずで

す。ご存知の方も多いですが、私はIngenuityFilmsの制作責任者であるブレント・ミラー・ジュニアから『BeforeTheWrath』に出演の依頼を受けました。それは素晴らしい特権でした。この映画はもっぱらこの予型論についてでしたから。Amazon Primeでご覧になれます。まだご覧になっていない方は、ぜひご覧になることをお勧めします。ガリラヤ式の結婚式の予型論に関して、非常によくできた映画です。以下は簡単な説明です。PDF資料にはもっと多く書いてありますが、時間の関係上、殊に、この予型論について、皆さんに説明したいと思います。なぜ、キリストの花嫁の携挙が、絶対に、完全数である7年の患難前に起こる必要があるのかについて最初のものから始めましょう。ユダヤ人の結婚式では、結婚の契約=ケトゥバがあります。そしてそれは、花嫁に果たされる約束として、花嫁のために書かれたものです。婚約するときの約束の指輪です。これは約束、つまり契約です。私たちの結婚式では、花嫁である私たちのために、神の書かれた御言葉において新しい契約が結ばれます。そして古い契約の約束は成就します。画面上に参照聖句が表示されていますが、やはり、資料には、それらの聖句と、他の聖句も含まれています。ユダヤ人の結婚式では、この契約が結ばれると、彼らはパンを裂いて杯から飲み、この新しい契約、婚約（キッドゥシン）を締結します。私たちの結婚式では、最後の晩餐でイエスはパンを裂いて、弟子たちと杯から飲み、彼の新しい契約をご自分の血で結ばれました。それは、花婿と花嫁のこと、そして来るべきこの結婚の約束のことだったのです。それが最後の晩餐の意味でした。ユダヤ人の結婚式では、花婿は代価(モハー)を払って、花嫁に自分への愛を示します。私たちの結婚式では、イエスが十字架の上で代価を全て支払いました。これは、私たち花嫁に、イエスが私たちのために命を捨てられる以上に大きな愛はないことを示します。ユダヤ人の結婚式では、花婿は彼の花嫁のための場所を準備します。婚約の後、彼らはパンを裂き、杯から飲み、婚約の契約を結び、花婿は間もなく妻になる花嫁にこう言います。

「私はこれから行き、父の家に場所、婚姻部屋を用意します。私たちが結婚を完成させ、お祝いすることができるよう。そしてそれが終わったら、私は戻って来て、あなたを迎えに来ます。私はあなたを連れて行って、私たちは結婚します。」

それが習慣でした。私たちの結婚式では、イエスはこう言われました。

わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、わたしの父の家には住む所（\*邸宅）がたくさんあります。

一部の翻訳では、「住まい」と訳されています。

...また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。(以上ヨハネ 14 : 3 参照)

「そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行く、と言ったでしょうか。」

(ヨハネ 14 : 2)

彼は自分の花嫁に、花婿として話しているのです。私たちの 婚姻部屋を作りに行くのだと。わたしは あなたがたを 迎えに戻ってきますと。ユダヤ人の結婚式では、花婿が花嫁のために戻る日、また時刻を知っているのは父親だけです。私たちの結婚式では、イエスは、父以外の誰も 彼の花嫁である 私たちのために 彼が戻ってくる 日や時を知らないと言われました。(マルコ 13 : 32 参照)

ユダヤ人の結婚式では、花婿が来るとき、花婿の介添人が先に走り出して、「彼が来る～」と叫び、彼らはラッパを鳴らします。「彼が来る～」 「彼が来る～」 私たちの結婚式では、花婿が来るときは、神のラッパの叫びと共に、イエスが私たち花嫁のために来られます。ここからが本当に面白くなる場所で、私はドキュメンタリー「御怒りの前 (Before the Wrath)」の撮影までは、この事を知りませんでした。これはガリラヤ地方で行われた考古学的な発掘から分かったことの一部です。ブレントが私にこれを教えてくれた時、私は、「ああ大変だ。」 「ユダヤ人の結婚式に関する長年の教えをすべてやり直さないか！ 私はこれを知らなかったから。」これは素晴らしい。これは鳥肌ものです。花婿が来て、彼の花嫁を連れ、花嫁はこんな椅子に乘せられて、そして、地面から持ち上げられて、花婿の所へと 空中を運ば

れるのです。ええっ？ ちょうど、私たちの花婿イエスが来られる時のように。私たちは空中に引き上げられ、空中で 彼に会うために 彼のところに連れて行かれます。うわー！ さてユダヤ人の結婚式では、... こういう言い方をさせてもらえば、これが 私たちが法医学的証拠を見る箇所です。患難前携挙の証拠です。新郎が彼の花嫁を部屋に連れて行って、彼らは婚姻を完成させ = ニッスイ、そしてシャブア = "7"の期間、祝うのです。3.5ではありません！ すみません。私は叫ばないと 主に言いましたが、やりました。いえいえ...ご辛抱ください。7は完全数です。ダニエルの第70週目。前回確認したところ、1週間は7日あります。イエス・キリストの花嫁を、7年間の患難のどこかに入れるならば、予型論を崩し、崩壊させてしまいます。神はそれを大変 深刻に受け止められます。それはモーセに尋ねてみると良いでしょう。

「どういう意味ですか？」 ああ、何が起こったのか覚えてないんですか？ モーセは命じられました。イスラエル人は 不平を言っていました。「我々は死んでしまう！」 「エジプトには、私たちが殺して埋めるために十分な墓がなかったのか？」 「神は私たちが荒野に連れて来て 殺さねばならなかったのか？」 「喉が渴いて死にそうです。水は？」そこで、神は言われます。

「モーセよ。岩を打ちなさい。 そうすれば、水が出てくる。」そこで彼はそうしました。それはまた起こります。そしてイスラエルの民はまた不平不満を言います。モーセはもう うんざりしていました。そして、神はモーセに岩を打つのではなく、岩に命じなさい と言われます。しかし、怒り心頭のモーセは何をするでしょう？ 実は細かいところがかなり面白いです。私はこれに深入りするつもりはありませんでしたが、皆さんにこれを聞く必要があるのかもしれない。「『7』という数の予型論」に関する事です。彼は言います。

「私たちは”どれくらいあなたがたに我慢しなければならないのか？」私には想像できます。本文にはないのは分かっていますが、神がこう仰るのが想像できます。「なあ、モー。こっちに来なさい。」 「その”私たち”ってなんだ？」 「ああ、あなたは今わたしと同じレベルにいるんだね？」それはモーセに約束の地を失わせました。ご存知ですね？ なぜか？ 彼は予型論を壊したからです。どんな予型？ その岩はキリストです。イエスは一度だけ打たれました。一度、十字架につ

けられました。二度ではありません。磔刑後の今、皆さんは キリストに話しかける事ができます。それが予型論でした。今、あなたは 岩に話しかける(命じる)事ができます。しかし、モーセは何をしますか？彼はもう一度岩を打ちます。それは予型論を損ないます。神はそれを非常に深刻に受け止められます。多分、今がちょうどいい機会かもしれません。これを言うつもりはなかったのですが、言う必要があるのでしょうか。愛をもって、言います。私が患難前携挙について話すと、例外なく、、、私は、なんと言いますか、私はとにかく、非常に非難されます。その中の卑劣で不快なコメントと言ったら... 色んな人からのメールが届きますが、基本的に彼らは、私に罵詈雑言を浴びせます。人々を迷わせる偽教師だと、私を非難します。皆さんに言いたいんです。そんなコメントを投稿したり、そういうメールを送る前に、よく考えた方がいいと思います。

なぜかと言うと、あなたは、あなたが投稿した一字一句に申し開きをせねばならなくなるからです。私自身も、自分の心を見張らねばならない者として そう言っています。あなたは すごく気を付けた方がいいのです。あなたは、あなたが書き、タイプし、投稿し、送信する 一語一語によって裁かれるからです。そういう事です。これでも止まらないでしょうが、結構です。ですから、イエスは来られて、 私たちのために準備されたこの場所に 私たちを連れて行き、私たちは 7 年間 お祝いします。私はある人がこう言ったのが好きなんです、世が患難している間、私たちは浮かれ騒いで、 私たちの子羊との婚姻を完成させているのです。ユダヤ人の結婚式では... これは 7 年後の事です。7 日後。巨大な祝宴があります。これが何を意味するか知っていますよね？これは、特に男性にとって、大きな励みになるはずで。天国の食べ物。女性にとってもです。コレステロールやカロリー、脂肪分、何も関係ありません。それは 子羊の婚姻の祝宴です。それは、7 日...つまり 7 年の祝いの後です。私たちも、7 年間の祝いと完成の後、婚姻部屋から姿を現します。そして、私たちが祝う、子羊の婚姻の 大宴会があります。これが、患難後携挙説が、常に難しいものである理由です。なぜなら、携挙が仮説的に、議論上、患難後だとするなら、婚姻の祝宴は、ドライブスルー用の 紙袋入り 弁当になります。バンジージャンプ状態で...と言うのも、あなたは(こんなに上下に) ..7年がありません。再び予型論です。最後です。ユダヤ人の結婚式では、花嫁の新居はエルサレムでした。花婿が、花嫁と一緒に住むために、花嫁のところに来たのです。そして、新しいエルサレムから、私たちの花婿であるイエスが、私たちと一緒に住まわれます。永遠に新しいエルサレムで。これが、4 つ目の理由につながります。それは、「私たちのためのラッパ」です。聖書中でラッパは、神の民を神に合わせるか、結婚式のために集合させるために鳴らされます。ラッパはまた、別の理由でも鳴らされます。戦いや戦争のために神の民を集めるためです。旧約聖書と新約聖書の両方に、2 つの異なる目的のための 2 種類のラッパがあります。また、最初のラッパと最後のラッパがあります。ご辛抱ください。これは非常に重要です。ここは、多くのクリスチャンが聖書、具体的には 聖書預言を解釈する時に、多くの問題に直面するところです。最初のラッパは イスラエルのためです。最後のラッパは 教会のためです。旧約聖書の中の、イスラエルのための最初のラッパは 出エジプト記 19 章 16-17 節にあります。「三日目の朝、...」興味深いことに、予型があります。わかりましたか？「.....雷鳴と稲妻と厚い雲が山の上にあって、角笛の音が非常に高く鳴り響いたので、宿営の中の民は みな震え上がった。」「モーセは、神に会わせようと、民を宿営から連れ出した。彼らは山の上のふもとに立った。」これは神の民を集めて神に合わせるための最初のラッパでした。最後のラッパは 私たち、教会のためのものです。これはパウロのコリント人への最初の手紙で見られ、彼は、教会の携挙に



ついて述べています。15章の51節～52節で、次のように語っています。コ  
リント人への手紙第一 15章

51 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠る（死の意）わけではありませんが、みな変えられます。終わりのラッパとともに（キーワード）、たちまち、一瞬のうちに変えられます。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。

さて、この先に進む前に、黙示録10章7節にあるラッパに触れておかないと私の職務怠慢になってしまうと思います。

#### 黙示録 10章

7 第七の御使いが吹こうとしているラッパの音が響く その日に、神の奥義は、神が ご自分のしもべである預言者たちに告げたとおりに実現する。

これが患難中のことであり、これが最後のラッパだと提案する人が大勢います。だから、患難中のこのラッパが鳴るまで、携挙は起こり得ないのだ、と。その問題点と、それが真実ではない理由は次の通りです。それは、御使いが吹き鳴らすラッパです。これは最後のラッパではありません。あなたは理解せねばなりません。これはとても重要です。お見逃しなく。聖書には二つのラッパがあります。1つは御使いのラッパで、もう1つは神のラッパです。御使いのラッパはイスラエルのためであり、神のラッパは教会のためです。だから、黙示録にある患難中期のこのラッパは、教会のためではあり得ないのです。それは御使いのラッパです。

#### マタイ 24章 31節

人の子は大きなラッパの響きとともに御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たち（イスラエル）を集めます。

第一テサロニケ 4章 16-17節、後ほど、これについて話します。

#### 第一テサロニケ 4章

16 すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。...

御使いのラッパではありません。神のラッパです。

...そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、

17 それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。

いいでしょう。先に進めます。5つ目の理由。私たちとの統一性。ここでも、患難前携挙の雛型です。今回は旧約聖書で。それは、聖書の中の予型（ひな形）が、今の私たちとどのように関連していて作用するか、また、預言的な描写と いかにかに 調和・一体化するかを示すもので、この統一性を確立します。調和させて一つにします。まず、救い主ご自身がルカの福音書 17章26-30節で述べられた最初の2つから始めます。

#### ルカの福音書 17章

26 ちょうど、ノアの日に起こったのと同じことが、人の子の日にも起こります。

27 ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったりとついでにしていたが、洪水が来て、すべての人を滅ぼしてしまいました。

28 また、ロトの日に起こったことと同じようになります。人々は食べたり飲んだり、売ったり買った

り、植えたり建てたりしていましたが、

29 ロトがソドムから出て行ったその日に、火と硫黄が天から降って来て、すべての人を滅ぼしてしまいました。

30 人の子が現れる日にも、同じことが起こります。

いいでしょう。ここでは、私たちの時代とノアの日を比べて、この予型論の類似点を少しだけ挙げてみましょう。ロトの日も同様に、私たちの時代と比較して。やはり、資料にはもっと載せていますが、時間の都合上、いくつかだけ取り上げます。まず、一部の学者は、ノアの時代の地球の人口は約70億～90億人だったと推定しています。現在、地球の人口は約80億人に達していると推定されています。もうすぐ90億人に到達するでしょう。非常に悪魔的な、非常に性的に忌まわしい行為が、当時、標準的になっていました。これが創世記6章にあるように、ネフィリムと呼ばれるのを聞いたことがあるでしょう。これらは悪魔でした。ちなみに、補助的に言うべきですが、新たな関心が寄せられています。実際、皆さんも、これらのUFOや宇宙人について、ニュースでよく耳にしているのではないのでしょうか。ある人たちは、携挙が起こって何百万人もの人々が消える時に、その説明としてこれが使われるのだろうと信じています。私は非常にはっきりと、公に言うべきですが、このUFOや宇宙人は悪魔です。ノアの時代には、血統をおとしめるのが目的だったのです。だからこそ、彼らはイスラエル人の女性と性的関係を持つようとしたのです。救い主の現れる血統を損ない、おとしめ、台無しにするためです。ちょっと強烈な類の話なのは分かってます。その話に入りたくないし、時間もありませんが、こんにち起こっている事は、言葉では表せません。今日、起こっている事は...言うに耐えないものです。性的に嫌悪すべきこと、悪魔的な行為...ノアの時代には、人間の悪は非常に増大し、その心に抱く考えは絶えず悪に傾いていました。そしてこんにち、人間の悪さは非常に増大し、邪悪で、日ごとに益々邪悪さが増しているように見えます。やはり、参照聖句が資料にあります。ノアは箱舟を準備しながら説教をし、人々に警告しましたが、誰も耳を傾けなかった。こんにち、イエスが説教され、人々は警告を受けていますが、悲しいことに誰も聞いていないようです。ノアの時代には、その日に洪水が地球を滅ぼすまで、人々は何が起こるのか何も知りませんでした。こんにち人々は何が起こるかを何も知りません。しかし、火が地球を滅ぼす日がやってくるのです。しかし、ペテロが第二の手紙で語っているように、人々はあざけり、嘲笑し続けるだけです。ノアの時代の大洪水の破壊の前に、

「エノクは神とともに歩んだ。神が彼を取られたので、彼はいなくなった。」（創世記5:24）

私はこれが大好きです。彼がいつものように外にいたら... プン！と消えてしまったのです。彼はどこへ行ったのでしょうか？ 神が彼を取られました。どうやって神はエノクを取られたのでしょうか？ 携挙なさいました。彼を空中に引き上げられ、ブン！彼はいなくなりました。皆さん私を「それで？」みたいに見ておられますね？ エノクは教会の描写です。大洪水前に。ノアはイスラエルの描写です。イスラエルは、7年間の大患難時代に入ります。しかし私たちの予型はノアではありません。私たちの予型はエノクであり、大洪水前です。ちょうど私たちが...その日は、、あ～、素晴らしい。今この瞬間でどうでしょう？ 皆さんが日常の生活をしていると、ブーン！それだけ。皆さんはいなくなります。神が携挙されたんです。取り除かれた。エノクが洪水前に取られたように、7年間の患難前に。「ノアは息子たちや自分の妻、...」創世記7章にあるこの詳細は興味深いです。「...それに息子たちの妻とともに、大洪水の大水を避けるために箱舟に入った。」「七日たつと、大洪水の大水が地の上に生じた。」そのように、私たちがエノクのように取られた後で、患難が全地を襲います。そしてイスラエルは、7年間

の患難に入ります。イスラエルの予型である ノアと彼の家族が 大洪水の ど真ん中で救われたように、イスラエルは7年の患難の ど真ん中で救われるのです。ちょうどユダヤ人が患難時代に救われる様に、裁きの後、彼らは新しい地に入っていました。そして裁きの後に、私たちは新しい天と 新しい地に入ります。ロトの話を手短にしましょう興味深いので、お聞きください。ロトは破壊が来る前に、突然ソドムから連れ出されました。実際 本文を読んでみると、興味深い詳述があります。ロトは去りたくなかったという印象を受けます。彼の妻が去りたくなかったのは知っていますね。その後どうなったかも。しかし、そのため、彼らは彼の手を掴んで、ほとんど力づくで彼の意志に反して、連れ出さねばならなかった程でした。火や硫黄が降って来て、 ソドムとゴモラを滅ぼし始める前に。ロトは、教会の予型です。さて、これが部分的携挙説として知られる 誤った教えに関する質問に答えます ざっと説明させてください。

ご辛抱ください。部分的携挙説とは、本当に 主に情熱を燃やしている人たちだけ、主を待って、本当に見張っている人々だけ、本当に 主のそばを歩いている者たちだけが 携挙されるというものです。ロトをそういう風に表現するのは難しいと思います。ロトは、言わば、世俗的なクリスチャンを 絵にかいたような人だと思います。彼はそれでも、破壊が襲う前に、連れ出されました。この患難前携挙の教えの為に、私を心底から嫌っている兄弟姉妹の皆さん、あなたに知ってもらいたいのは、私が神だったら、あなたはそうしないでしょう。皆さんにただ率直に言います。「へえ、あなたは患難中期説がいい？ ごきげんよう (アロハ)。」ちなみに、私はアッラーとは言ってません。アーローハーです。あ〜、やれやれ。好むと好まざるとに関わらず、、 そんな風に言っているいいですか？

好むと好ま

ざるとにかかわらず、あなたは 携挙で上げられます。患難前携挙を 信じる信じないに関わらずです。あなたは行いによらず、恵みによって 救われているからです。携挙で上げられるためには、主のそばを歩いていなければならないのなら、それって、突然、救いを恵みの領域から取り出し、行い (**W**orks)の領域の真ん中に置くことになります。それは上手く行き (**W**ork)ません。シャレを言うつもりはないです。語呂合わせでした。ヨセフについて。ヨセフは、聖書の中で最も興味をそそられる キリストの予型の一つです。実際、ヨセフが キリストの予型 であることを示す 参照聖句が100以上あります。そのPDF ファイルをダウンロードしたい方は、私たちのウェブサイトにあります。私は患難時代中のイスラエルの救いと 患難時代の真ん中における イスラエルの解放を 指し示す予型論に 焦点を当てたいと思います。ちょうどヨセフが 7年間の飢饉の最中に イスラエルを救ったように、ヨセフよりも偉大な方、イエスは、 7年間の患難時代に イスラエルを救うのです。さて、これは7年間の患難が ユダヤ人国家の救いのためである事を示しているだけではなく、また、キリストの花嫁の 患難前の携挙も示しています。その論理を説明します。ちょうど、ヨセフが地位を高く上げられた後、 異邦人の花嫁を めとったように、イエスもまた、復活された後、 異邦人の花嫁を めとられます。ヨセフが異邦人の花嫁を めとった後、 彼の兄弟たちが 7年間の飢饉に見舞われたように、イエスが私たちを花嫁とした後、 彼のユダヤ人の兄弟たちが 7年間の患難に入ります。創世記41章50節。 参照聖句です。

「飢饉の年が来る” 前に”、ヨセフに二人の子が生まれた。オンの祭司 ポティ・フェラの娘アセナテが産んだ子である。」 (創世記 41 章 50 節)

なぜ そんな詳述があるのでしょうか？ 彼女が 教会の予型 だからです。 飢饉の前です。エノクは洪水前。ヨセフの花嫁は、 7 年間の飢饉前。 教会携挙の縮図です。ヨセフのお陰で 7 年間の飢饉中にイスラエルが救われた後 イスラエルは 世の予型 であるエジプトから モーセによって、救い出されます。モーセも イエスの予型です。救世主です。ちなみに、モーセも兄弟たちに拒絶された後、 異邦人の花嫁

をめぐっていました。彼らがパロの下で、大患難、あらゆる災いに入る前です。同様に、モーセよりも偉大なイエスは、彼の兄弟たちに拒絶された後、私たち異邦人の花嫁を取られました。そして、兄弟たちが7年間の患難に入る前に、私たちをご自分の花嫁として連れて行かれるのです。イサクもまた、キリストの予型で、リベカというの名の異邦人の花嫁を娶りました。彼女もまた、彼らに下された苦難を経験しませんでした。私たちにそれが分かるのは、彼らに苦難が来る前に、彼女はイサクのところに行くために家から連れて行かれたからです。その後彼女については書かれていません。ダニエル。以前この事を話しましたね。彼は、教会の予型。シャデラク、メシャク、アベド・ネゴは、イスラエルの予型。彼らが投げ込まれたのは、再度その数が出てきます。何という偶然 “7”。7倍熱く燃え盛る炉。イスラエルの描写。彼らは、イスラエルが患難の最中に救われるのと同様、その燃え盛る炉のど真ん中で救われるのです。実際、文字通りの中間点で。ど真ん中で。彼らはイスラエルの予型です。ダニエルはどこ？そこにはいません。何故？お～聞いて下さって嬉しいです。なぜなら炉（Furnace）の前に、、、飢饉（Famine）前、洪水（Flood）前、、、みんな「F」で始まるのです。ちょっと言っておきます。炉の前に、ダニエルは高い地位に上げられます。炉の前に！もうそこにはいません。彼は教会の描写です。彼は、炉の前に、上げられました。面白くないですか？ その炉は、3.5倍の熱さではありません。私は利口(キュート)になろうとしてるんじゃないです。しようとしてもできないのです。そうでしょう？ 3.5ではなく、7。

エジプトの飢饉は、3年半じゃなく7年。気分が良くなりました。あ、ついでに興味深い事が一つあります。ダニエル書3章。彼らは偶像崇拝を拒否し...そのため7倍に熱くした炉の中に入れられてしまう。彼らは、6つの楽器が演奏される時、60×6 キュビットの像を崇拝する事を拒否しました。666。その像。だから彼らは炉に投げ込まれたのです。もうちょっとで終わります。皆さんの中には、「おい、今何時か見たか？」時計を見ないでください。私が見ました。ルツ。ボアズの異邦人の花嫁。彼は買戻しの権利のある親類で、明らかに私たちの買戻しの権利のあるイエス・キリストを描いています。私たちは、ルツ記を学びました。YouTubeとウェブサイトでご覧になれます。なんと興味をそそられる学びでしょうか。私のお気に入りの一つです。私がほとんど全ての書についてそう言っているのは分かっていますが、本当に魅力的な書です。私は娘にルツ記を教えました。大変すばらしいのです。とにかく、この予型という生地に織り込まれているのは、大患難前の携挙のもう一つの描写です。それはもっと具体的なもので、キリストの花嫁と、神の選民としてのイスラエルの回復に関連しています。手早くやりますので、ついて来てください。シートベルトをお締めください。

#### ルツ記 1章 19 節

「二人は旅をして、ベツレヘムに着いた。」

とあります。ナオミとルツは、ベツレヘムの故に協力する、ユダヤ人と異邦人両方の予型です。

#### ルツ記 4章 13 節

「ボアズはルツを迎え、彼女は彼の妻となった。 -中略- ルツは、男の子を生んだ。」

ボアズよりも偉大なイエスも同様、御子として、彼の花嫁を娶ります。ここが本当に面白くなる場所です。

#### 4章 16-17 節。

ナオミは、ルツが産んだその子を取り、養い育てた。なお、その子の名はオベデで、

オベデは、エッサイの父であり、エッサイはダビデの父であり、このダビデからこの世の救世主が出る



のです。

ベツレヘムで生まれ、ナオミの懷に抱かれたこの子は、イスラエルの予型で、キリストの花嫁の予型であるルツから取られた後、彼女は二度と登場しません。イスラエルもまた、ベツレヘムで生まれたダビデの子を、異邦人のキリストの花嫁から取った後に、受け入れるのです。分かりませんか？ 教会が携挙され取り去られる時、神は、彼の全焦点を、彼の民イスラエルの為の預言上の最後のご計画に移されるのです。それが患難時代の本質です。イスラエルが彼らの真の救世主を拒否したから。それが患難時代の目的です。

6つ目。私たちにある責任。メリアム・ウェブスター辞典は、「責任」を信頼性と信憑性と定義しています。そして、人が責任を持つもの。その責任を放棄したり、怠ったりしていないという意味で。黙示録3章7～13節。ヨハネによって書かれた、イエスからフィラデルフィアの教会に宛てた手紙です。読みたいと思います。

### 黙示録3章

7 また、フィラデルフィアにある教会の御使いに書き送れ。『聖なる方、真実な方、ダビデの鍵を持っている方、彼が開くと、誰も閉じることがなく、彼が閉じると、だれも開くことがない。その方がこう言われる。あまり深読みしないでください。でもそれって興味深いですね。神が扉を閉められると、誰も開くことが出来ない。でも、神が教会への扉を開かれると、誰も閉じるべきではない。

8 わたしはあなたの行いを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることができない門を、あなたの前に開いておいた。あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。

言い換えれば、「あなたは責任を怠っていない。」

9 見よ。サタンの会衆に属する者、すなわち、ユダヤ人だと自称しているが、実はそうではなく、嘘を言っている者たちに、わたしはこうする。見よ。彼らをあなたの足もとに來させてひれ伏させ、わたしがあなたを愛していることを知らせる。

これは、また別の機会の別のトピックです。でも10節。ご注目下さい。

10 あなたは忍耐についてのわたしのことばを守ったので、- 中略 - 試練の時には、わたしもあなたを守る。

原語では患難(苦難)と同語です。

...地上に住む者たちを試みるために全世界に來ようとしている試練の時(7年間の患難時代)には、わたしもあなたを守る。

11 わたしはすぐに来る。あなたは、自分の冠をだれにも奪われないように、持っているものをしっかり保ちなさい。

12 わたしは、勝利を得る者を、私の神の神殿の柱とする。彼はもはや決して外に出て行くことはない。わたしは彼の上に、わたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下ってくる新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを書き記す。

待ちきれません。私はずっと自分の名が好きじゃなかったんです。新しい名前が待ちきれません。どんな名になるのかとても気になります。フラグ以外なら何でもいいです。

13 節。どの手紙もこの終わり方です。「耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。』」



7つ目。最後ですが、大事です。最後にとっておいた一番いいものです。携挙が7年間の患難前に起こらねばならないのは、それは、私たちからの励ましのためです。そして実際に私たちのための励ましでもあります。

#### 第一テサロニケ 4章 13節～18節

13 眠っている人たちについては、兄弟たち、あなたがたに知らずにいてほしくありません。あなたがたが、望みのない他の人々のように悲しまないためです。

「私たちが信じているなら、…」

ところで、第一テサロニケを通して、私たちの学びにご一緒して下さった皆さん、これは使徒パウロが宣教の初めごろに書いた一番最初の手紙です。そしてここには、イエス・キリストの福音について、使徒パウロが最初に語ったものがあります。それが、教会の携挙の文脈で語られている事は面白くないですか？ それが言わば完全な福音なのです。

14 イエスが死んで復活された、と私たちが信じているなら、神はまた同じように、イエスにあって眠った人たち（死んだ人たち）を、イエスとともに連れてこられるはずです。

15 私たちは主のことばによって、あなたがたに伝えます。生きている私たちは、主の来臨まで残っているなら、眠った人たちより先になることは決してありません。

16 すなわち、号令と御使いのかしらの声と“神のラッパ”の響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、

17 それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、...

ギリシャ語でハルパツォ、ラテン語でラプトウルス、

それが携挙（ラプチャー）という言葉の語源です。

私たちが、彼らと一緒に（携挙され）雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。

再臨においては、イエスは地上に下りてこられます。携挙では、私たちは空中で主と会うのです。こう言われています。携挙では、イエスは私たちの為に来られ、再臨では、イエスは私たちと共に、何万もの人々を伴われて来られるのです。

...こうして私たちは、いつまでも主とともにいることになります。

18 節に注目して頂きたいと思います。

18 ですから、これらのことばをもって互いに励ましあいなさい。

お～♡ Ok. ご辛抱ください。もしあなたが患難時代を経験するなら、パウロは、「ですから互いに励ましあいなさい。」と、どうして言うことが出来るのでしょうか？ あなたは恐らく首をはねられます。人口の3分の1が亡くなります。神の御怒りが下り、言葉にならない恐怖です。因みにあなたがクリスチャンなら、神の御怒りは既にキリストに注がれました。なので、神はなぜあなたに御怒りを注がれるのですか？ それってイエスがなされた事が“完了”してなかったという意味ですか？ それは神への冒瀆です。辻褄が合いません。「あなたがたは、言葉にならない恐怖を経験するのだから、これらのことばをもって互いに励まし合いなさい。」とは言えません。それは残酷です。酷い事です。そうは言えません。

あなたが言えるのは、ただ、「あなたがたはここにいないのだから、互いに励ましあいなさい。」そうなんですか？ 「そうですよ。」それは凄く励まされます。「そうですね。」「さあ、互いに励まし合いなさい。あなたがたが既にそうしているように。これは携挙が中心だから。」これは携挙の文脈にあ

るんです。励ましあいなさい。あなたがたはこれらの事が 襲ってくる前に、連れ出されるのだから。それは あなたがたを励ましますか？ それは私の励みになりますよ！ 特に、何が起こるのかを見れば！！！！

本気ですか？ 私は、、、「大いなる再設定」経済崩壊。それはもう時間の問題です。それは非常に恐ろしいことです。でも私は恐れおののいていません。私は励まされています。なぜ？ なぜなら、ここにいないんだも〜ん。正しい英語でないのは分かっています。何が本当に悲しいかという、多くのクリスチャンが、大変怖がり、不必要に怯え、落ち込み、絶望を感じている事。不必要に。私たちはどうなるの？ どうするの？ もしも？ いいえ違います。それは無関係です。それは重要でなく、取るに足らないものです。皆さんがここに居ることはありません。神が皆さんをここから連れ出されます。勇気を出して下さい。互いに励まし合ってください。この全てが起こる”前に”、私たちは引き上げられ、空中で主と会うのです。オンラインの皆さん、まだご覧いただいているなら、ご忍耐に感謝します。もう着陸しますから。すみません。アラブ人が空港用語を使うべきでないですが、私たちは滑走路を見つけ、着陸します。冒頭にも述べましたが、この時期にこの教えをするべきだと、主が言っておられるのを本当に感じました。あらゆる事が非常に早く動いていますから。そして私が本当に心から信じている事は、...主が私の心をご存知ですが...イエス・キリストの教会携挙はもういつでも起こり得る事です。私たちは大変近づいています。私たちの誰もが想像するよりもずっと近いと思います。私は待ちたくありませんでした。先週話した通り、実は9月から10月にこの教えをする予定にしていました。でも、強く感じたのです。「いや、今教える必要がある」と。今教える必要がある。先延ばしにしてはいけない、と。これを聞く必要があるクリスチャンがたくさんおられます。ただ怯え、不安でいっぱいクリスチャンがたくさんおられます。あなたはこれを解決して、真理を教える必要があります。愛をもって。私が親切で、愛を示せてこれていたらいいのですが。私がたまに厭味っらしくなる事があるのは自覚しています。賜物です。故意にするつもりはありません。大患難前携挙という真理になると、私はとても情熱的になるんです。最後に一つ、こういう議論があります。それにもメリットはあります。携挙は救いの問題ではない。いいでしょう。それは認めましょう。しかし、次の事を考慮して下さい。もし、これが真実なら、...本当に そうですけど...それなら、キリストを知らない人々にとって、それが広範囲に影響を与えるというのが理にかなってないですか？ つまり、あなたは、永遠に誰かの人生を変えることができる情報を知っているのです。私たちが言っているのは、単なる生死ではなく、永遠のいのち、永遠の死、についてです。それは私には、救いの問題のように思えます。なぜなら皆さんが言っている事が真実なら、...そしてそれは真実です...私は聖句から 患難前携挙を証明する以外に他に何ができるのか分からないのです。では、あなたはいかがですか？ あなたが主を知らなくて、これが真実なら？ 何を待っているんですか？ それは救いです。あなたは今、今日、主の下へ来る必要があります。さもなければ、あなたは取り残されます。「ねえ、私には携挙後にも機会があるから、だからもし取り残されて、あなたの言うようなことが本当に起きたら、私は患難時代にキリストに命を捧げるから。」「本当に？」何をもってそう確信を持てるのですか？ 患難前に、キリストのために生きる気がないなら、患難時代にあなたがキリストの為に死ぬると、何をもって思えるのですか？

「あなたがたが仕えようと思うものを、今日選ぶがよい。」（ヨシュア 24:15）

今は救いの日です。（2コリント 6:2）

「主を求めよ、お会いできる間に。」（イザヤ 55：6）

「わたし(神)の霊は、永久には人のうちにとどまらないであろう。」 (創世記 6:3)

あなたが神を無視して、知らん顔してきて、もしもあなたが オンラインでご覧になっているなら、主はあなたに話しかけて、あなたの注意を引こうとされています。もう扉を叩く音が聞こえなくなる時が来るのです。そうすると手遅れになります。その時はかなり近いと思います。これが私たちが、14年間 毎週 預言アップデートをしてきた理由です。それがイエス・キリストの福音/良い知らせと、救いのABC という、子どもにでも分かる救いの説明で 締めくくる理由です。どなたの知性も侮辱する意図はありません。子どもにでも分かる簡単な説明です。イエスが仰いました。

「子どものたちのようにならなければ、決して天の御国に入れません。」 (マタイ 18 : 3)

イエスが仰っているのは、子供たちは大変 信頼します。見知らぬ人に注意するよう 言わねばならないほかに。イエスが仰っているのは、子どものようにわたしに信頼しなさい。

A : 自分が 神に背いた 罪びと であるのを、また 自分には 救い主が必要であると Admit/認める または、Acknowledge/認識する。ローマ人への手紙3章10節、

「正しい者はいない。一人もいない。」 (ローマ 3 : 10)

ローマ人への手紙 3 章 23 節が理由を教えてください。

「人は皆 (私たちの誰しもが)、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、」 (ローマ 3 : 23) 私たちは皆、罪びと として生まれました。だから、私たちは 天の御国に入るには、新生しなければならないのです。ローマ人への手紙 6 章 23 節が興味深いのは、基本的に 悪いニュースとして、罪に対して死刑宣告しているからです。

「罪が支払う報酬は死です。...」 (ローマ 6 : 23a)

あなたは有罪なので、罪状認否になると、あなたは「起訴通りに有罪」を申し立てます。その判決は何でしょうか？ はい、死刑判決です。それが悪い知らせ。しかしここに良い知らせがあります。

「しかし、神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。」 (ローマ 6 : 23b)

先ほどの 婚姻の予型論で話したように。花婿と花嫁を交えた婚姻の予型で。贈り物とは、何か与えられるものです。あなたは支払っていません。あなたが支払うなら、それは贈り物ではなく、購入した物。誰かが買ってくれたのです。イエスが購入されました。イエスはご自分の血潮であなたを買われました。イエスはその代金・代価(モハー)を、あなたと私のために、全額支払われました。そして、ご自分が支払った贈り物を差し出して下さっています。永遠のいのちという贈り物です。

B : あなたの心で、イエス・キリストが主であると Believe/信じる。ローマ人への手紙10章9～10節

「口でイエスが主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から 復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。」 (ローマ 10 : 9)

救われるかもしれない、救われうる、救われるべき、ではなく、「あなたは救われる」のです。そして最後に

C : 主の御名を Cal/呼び求める、Confess/告白する。再度、ローマ人への手紙10章9～10節

「口でイエスが主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から 復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。」 (ローマ 10 : 9)

理由は、

「実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。」 (ローマ 10 : 10)

最後は、ローマ人への手紙 10 章 13 節 私はこれ大好きです。私の場合、38 年前のある 1 月の夜のことでした。

『主の名を呼び求める者は誰でも救われる。』(ローマ 10 : 13)

それだけ？ はい。誰でも？ はい。私も入ってますよ。そうです。

『主の名を呼び求める者は誰でも救われる。』(ローマ 10 : 13)

オンラインで見られて、今まで主のお名前を呼び求めたことがない方、心で信じ、口で告白し、罪を認め、イエスを信頼したことがないなら、切にお願いします。あなたに懇願します。それが永遠のいのちのための、あなたの人生で最も重要な決断なのです。今日 決断なさる必要があります。ご起立ください。祈りましょう。天のお父様。ありがとうございます。

まず、あなたの民の忍耐に感謝します。主よ、福音の簡潔さに感謝します。聖書預言に感謝します。患難前携挙の真理に感謝します。それが全てを変えますから。主よ、誰でも、この第一礼拝におられる方でも、まだあなたのお名前を呼び求めたことのない方のために祈ります。今日 彼らとその決断をすることを祈ります。オンラインでご覧になっている方、彼らがこの動画を見ているのは偶然ではありません。今日が彼らの救いの日でありますように。そして最後に主よ。マラナタ。早く来てください。イエスの御名によって。アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7